



顔
写
真

ご あ い さ つ

教育長 齊木 邦彦

澄み切った青空に紅葉の色が映える季節が巡ってまいりました。秋本番の今、若さ溢れる高校生の文化の祭典、第41回山梨県高等学校芸術文化祭が開幕されますことを心からお祝い申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学校の休業が長期におよび、学校再開後も、高校生の様々な活動が、延期または中止を余儀なくされました。日々の生活の中に制約ができ、部活動にも安心して打ち込むことができない状況が続きました。

『芸術はいつもとなりに』。本大会のテーマからは、高校生の皆さんが楽しい時も苦しい時も、いつも芸術活動や芸術作品を身近な存在として、活動に打ち込み、そして作品を愛しているイメージが浮かびます。大会を通じて、皆さんには、日頃の活動の成果を精一杯発揮してほしいと思います。

高等学校の部活動の意義は、大会の結果だけでなく、むしろ日頃の努力の積み重ね、仲間との励まし合いの中にこそあります。大会で結果を出すためにがんばる、というよりも、練習に励むために大会を目標にする、というのが真実に近いのだと思います。人生はすべて本番、とはこのことをいうと思います。

毎日の放課後、体育部・文化部を問わず、各部の活動が学校全体を活気づけ、その雰囲気の中で各部の活動が行われています。そしてこの雰囲気が何事にも前向きになれる高校生のエネルギーを引き出しているのだと思います。部活動に無心に取り組む高校生の姿は、社会全体のエネルギーを引き出します。

高校生の皆さんがこれからもますます活躍し、持てる力を存分に発揮されることを心から願っています。山梨県高等学校文化連盟の役員および事務局の先生方、そして日頃から熱心にご指導いただいております各専門部や各校顧問の先生方に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。